

2017年度 天文資料

平成29年度 第3号 (6月号)

平成29年 6月 8日

発行：佐世保市少年科学館

佐世保市少年科学館

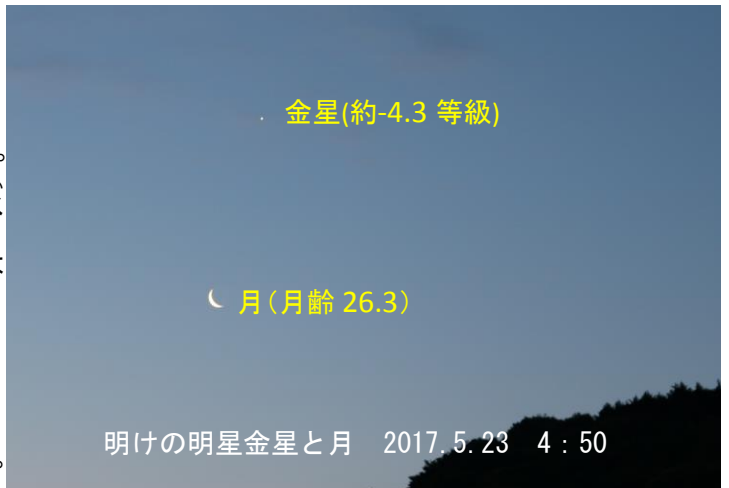


<金星、木星が見ごろ、月末には月と木星が接近>

今金星は、明け方東の空で**-4.3等級**の明るさで輝く「明けの明星」となっています。少し早起きすれば、その美しい姿を見ることができでしょう。また、「夜半の明星」木星も、宵の時間帯に南の空で**約-2等級**の明るさで輝いています。この木星、今月は2回月と接近します。1回目は6月3日(もう過ぎてしまいました)、2回目は月末の30日と来月の1日です。今回は、金星そして木星と月の接近についてとりあげます。

<朝、早起きして明けの明星金星を見よう>

太陽系の中で、内側から2番目の惑星である金星は、地球のすぐ外側を回る惑星です。直径は地球の約94%、地球よりわずかに小さいくらいです。大きさがほぼ同じなので、「地球のふたご星」とも呼ばれます。でも、金星表面の環境は地球とは大きく異なります。まず、表面の温度が平均**460℃**、これでは生物はとて生きていくことができません。この温度は、いちばん内側の惑星水星の表面温度よりも高いのです。(水星の昼間の表面温度は約350℃) 金星の表面温度がこんなに高いのは金星をおおっている**大気がほとんど二酸化炭素**だからです。二酸化炭素には**熱を逃がさないという性質**があります。しかも、金星表面での気圧は約**90気圧**、大量の二酸化炭素が、太陽熱を次々にためこんでいるのです。

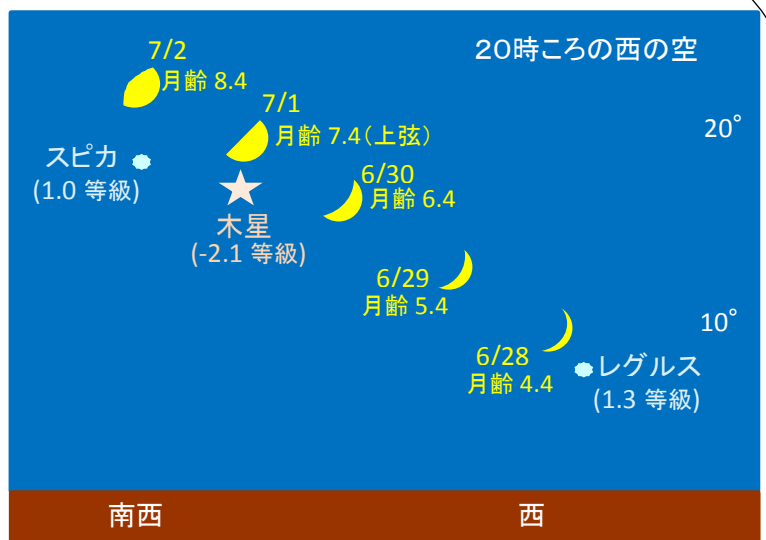


今、金星は明け方の東の空で大変明るく輝いています。とにかく明るいのですぐ見つけられます。朝、空がだんだん明るくなって、まわりの星が少しずつ見えなくなる中、金星だけがまわりの明るさに負けずに光っている姿は、夕方に一番星として見える金星とはまた違った魅力があります。ところでこの金星、望遠鏡で見ると、欠けているのがわかります。これから金星は地球から遠ざかっていきますので、少しずつ満ちてくる代わりに、見える大きさは小さくなります。望遠鏡を使えば昼間でも見ることができます。ただし、近くに太陽がありますので、くれぐれも**太陽を望遠鏡で直接見ないよ**

うに注意してください。それを考えれば、太陽が昇る前の明け方に望遠鏡を金星に向ける方が安全と言えるようです。

<月末から来月にかけて月が木星に接近、近くにはスピカも>

朝、空がだんだん明るくなって、他の星が見えなくなっても、ひとりが頑張って輝いているのが金星なら、今夕方に一番最初に輝きだすのが木星です。今年の春から夏にかけて、**-2等級を超える明るさ**で、夜空に輝きます。今木星は、おとめ座のスピカの近くにありますが、木星が明るいために、スピカがあまり目立たなくなっています。



この木星と月がたびたび接近します。接近と言っても、実際に木星と月の間の距離が短くなるのではなく、地球から見える角度が小さくなるということです。今回の接近は6月30日(金)と7月1日(土)、梅雨

の真最中なので、天気が心配ですが、もし見られたら、広い空の中で出会ったアルテミス(月)とジュピター(木星)が、「やあ、ひと月ぶりだけど元気だった？」などと声を掛け合っているように見えますよ。なお次の接近は、7月29日(土)です。望遠鏡をお持ちの方は、月と

接近する日以外の日でも、木星に向けてみてください。木星本体の縞模様と4個の衛星(ガリレオ衛星)を見ることができます。